

医療ルネサンス No.4757

最新機器で回復

3/5

油圧装具 歩行滑らかに

長野県松本市の丸山美智子さん(56)は朝晩、自宅近くの農道を散歩する。西には北アルプスの山々。田んぼやリンゴ畑の変化に季節を感じながら歩く。

丸山さんは14年前に発症した脳梗塞の後遺症で右の手足にまひが残った。血糖値を下げるインスリンの分泌が減少する1型糖尿病を患っていることも判明。運動が必要だと考えて、散歩を日課にしてきた。

脳卒中で足にまひが残ると、つま先が下向きに伸びてしまいい、つまずきやすくなる。そのため足首を固定する装具をいつも着けてきた。昨年3月、3台目の装具に換えた。

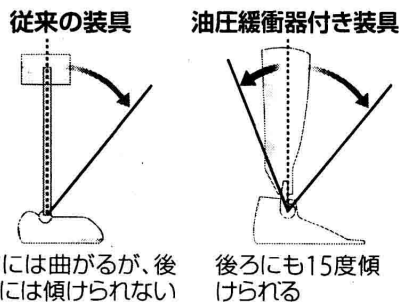


油圧緩衝器付き装具を右足に着けて自宅の周りを歩く丸山さん(長野県松本市)

「これは歩きやすいです」と丸山さん。新しい装具は、油圧緩衝器が付いた「ゲイトソリューション ションデザイン」(製品名)という。

従来型装具の多くは、足が前に曲がっても後ろには傾かない。通常、歩く時はかかとから足を着くが、足首が硬いので、ひざが早く前に出て、体が前のめりになる。

それを避けるため、腰をひいて歩くようになる。スキー靴で歩くのに似て、やや不自然な歩き方だ。



前には曲がるが、後ろには傾けられない

後ろにも15度傾けられる

一方、新しい装具は、後ろに最大で15度足首が傾けられる。かかとが接地した際に、チタン支柱に付いた油圧緩衝器が働くためだ。ひざが前に出るタイミングを遅らせることができる。

同市内の相澤病院総合リハビリテーションセンターの原寛美さんは「自然に近い歩き方ができます。従来型とは全く違いますね」と言い、利用を勧めている。

丸山さんは「安心して歩幅を広げられます。40分かけて歩いてきた散歩のコースが、30分で歩けるようになりました」と話す。

この装具は、国際医療福祉大教授(福祉援助工学)の山本澄子さんが、歩行動作を分析して開発。2004年に製品化された。下肢装具は3万円程度からある中で、これは約12万円と高い。しかし、保険が使えるので、自己負担は4万円弱。障害者自立支援法の補装具費給付が認められれば、自己負担金額は1万2000円程度となる。

インターネットサイト「ヨミドクター」(http://yomidr.jp)で、記者ブログを掲載。

(2010年1月18日 読売新聞より抜粋)